

口語訳付
甘露門

お盆の
迎へ方

まごころ

御先祖様に

見えなくとも

お花を供へよう

食べられなくとも

美味をお供へしよう

聞こえなくとも

お経をあげよう

きつときつと

心の会話ができることでしょう

そのとき

あなたも御先祖様も

心の喜びが得られます

甘露門

は

お施餓鬼せがきのとき お読みするお経です、

餓鬼がきに施すから お施餓鬼せがきといいますが、

食物を施すので 施食会せじきえともいいます。

この甘露文をお読み下さると

自分も救われ、他も恵まれていくという

仏教の精神がおわかり頂けると思っています。

味わいとり、生活の糧かてとして下さい。

餓鬼とは

物惜しみをし、他に施す事をしない者が墮ちるとされる苦の世界で、その罪により体は醜く瘦せ衰え、咽喉は針金の如く細くなり、飢渴が満たされることはないとされており。

こうして心が常に欲しい欲しいの欲望渴愛に満ちくぐるも、逆に醜陋塞口により飲食を受けることができないので、飢渴がより一層盛んとなり、苦しみ悩むことになります。

これは死後の世界ことであると同時に、現在の私共がすでにおち入っている心でもありましょう。

施餓鬼会は

この餓鬼衆に飲食を施し、法を説き、その成仏の功德を、改めて御先祖様に回向するという、いわば二段構になっております。

何故ならば、御先祖様を供養するのであれば、功德を受けるのは御先祖様のみということになってしまい、強いて云うならば、この自分の御先祖様のみというのも、餓鬼道の縁となってしまうからです。

そこで「お施餓鬼」は、先づ無量無数の餓鬼衆に施し、その成仏の大功德を、改めて御先祖様に回向するのです。

こうして餓鬼衆も、御先祖様も、自分も、皆共に救われるのがお施餓鬼の大功德で、施餓鬼会が有難いとされる由縁です。

普回向の

願くは 此の功德を以って

普く一切（衆生）に及ぼし

吾等と衆生と

皆共に 仏道を成ぜんことを――

というのが、甘露門（お施餓鬼）の目的であり、仏教の根本精神であります。

◎ 甘露門

□ 奉請三宝

南無十方仏

南無十方法

南無十方僧

南無本師 釈迦牟尼仏

南無大慈大悲 救苦觀世音菩薩

南無啓教 阿難尊者

□ 招請發願

是諸衆等

發心して一器の

淨食を奉持して

普く十方窮尽虚空

周遍法界微塵刹中

所有国土の一切の餓鬼に施す

先亡久遠山川地主

乃至曠野の諸鬼神等

請ふ来って此に集まれ

(經本を疊の上に置かないこと)

三世十方の 仏 法 僧、

とりわけては釈迦牟尼仏、

飲食咒をお説き下されし觀世音菩薩、

甘露門を説く因縁を啓かれし阿難尊者に

帰依し奉り、

此の座への降臨を請い奉る。

此に我等、餓鬼衆を救わんと

誓願を發し、器に飲食を盛り

十方世界のあらゆる

餓鬼衆に施さん、

先祖代々諸精靈よ

遠い／＼昔に亡くなりし者よ

山川曠野等に棲まう

餓鬼・鬼神衆等よ

疾く此の座に集まれ

われいま悲愍して

普く汝に食を施す。

願くは汝各々

我が此の食を受けて

転じ將って

尽虚空界の諸仏及聖

一切の有情に供養して

汝と有情と

普く皆飽満せんことを。

亦願くは汝が身

此の呪食に乗じて

苦を離れて解脱し

天に生じて樂を受け

十方の浄土も

意に随って遊往し

菩提心を發し、菩提道を行じ

当来に作仏して、永く退転なく

前に道を得る者は

誓って相度脱せんことを。

又願くは汝等

我れ今、慈悲哀愍の心もて

汝等に普く飲食を施さん。

願はくは汝等、此の食を受くる時

己が受くるのみならず、

更に転じもつてあらゆる世界の

仏法僧と一切有情に供養せよ、

其の功德を以つて、汝と有情

皆共に満足するのである。斯くする時

汝等、餓鬼界より救われん。

更に願うところは、汝等餓鬼衆よ

我が施すところの甘露の食により

餓鬼の苦しみを離れ成仏し

心の平安と法樂を得

あらゆる仏の世界に

自由自在に遊往し

菩提心を發して修行し、

速かに成仏し、更に更に

仲間の餓鬼・鬼神衆を導き

同じく成仏せしめよ。

又、汝等よ、成仏したならば

昼夜恒常に、我を擁護して

我が所願を満ぜんことを。

願くは此食を施す、所生の功德

普く以って

法界の有情に廻施して

諸の有情と

平等共有ならん。

諸の有情と共に

同じく此の福を持って

尽く將って

真如法界、無上菩提

一切智々に廻向して。

願くは速かに成仏して

余果を招くこと勿らん。

法界の含識

願くは此の法に乗じて

疾く成仏することを得ん。

□雲集鬼神 招請陀羅尼

のうば ばほり

日夜に我を援け、我が

衆生済度の心願を成就せしめよ。

此の飲食を施すところの功德

汝等の成仏した功德を、悉く

法界の有情に廻らし

等しく成仏の功德を分かちあい

皆共に仏道を成じようではないか。

斯くて、諸の有情と共に

此の甘露門功德、成仏功德を

尽く分かちあい回向しあい

共に仏の智慧を開かんことを願おう。

願くは一切衆生、皆共に成仏し

地獄餓鬼畜生道等に

墮ちること勿れ。

皆な共に甘露の法門に乗じ

成仏し、大安乐の世界を成じよう

さあそれでは甘露の法を説こう。

餓鬼衆よ、雲の如く集まれ

一切の執着を離れし

ぎゃりたり たたーぎゃたや

□破は地じ獄ごく門もん 開かい咽いん喉こう陀だ羅ら尼に

おんほほていり

ぎゃたり

たたーぎゃたや

□無むり量りょう威い徳とく自じ在ざい光こう明みょう加か持じ飲おん食じき陀だ羅ら尼に

のうまく さらば

たたーぎゃた

ばろきてい

おん さんばらー

さんばらーうん

如来のみもとへ。

汝なんだち等らよ飲いん食じき美び服ふく、地ち位い名な譽よ

財ざい産さん等らへの執しやく着ちやくを捨すててよ、

その時、地獄餓鬼道の苦を離れ

針はりの如ごとき咽のど喉ごは広ひろ大おほとなり

甘露あまのつゆの食けを受うくることを得えん。

此こゝの一ひと椀わんの食けを、法ほふによつて加か持じし

無む量りょう無む辺へんの食けとなして

普あまねく汝なんだち等らの飢うゑを癒いし、光こう明みょうを与よえん、

その功こう徳とくもて、相あい共どもに

福ふく寿じゆ延えん長ちやう 福ふく徳とく円えん満まんを得えん。